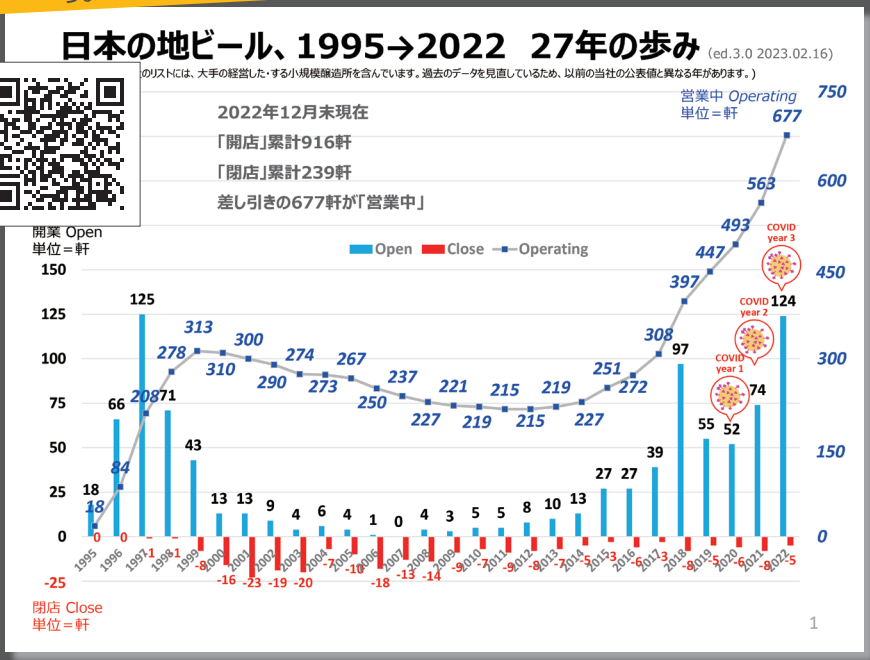
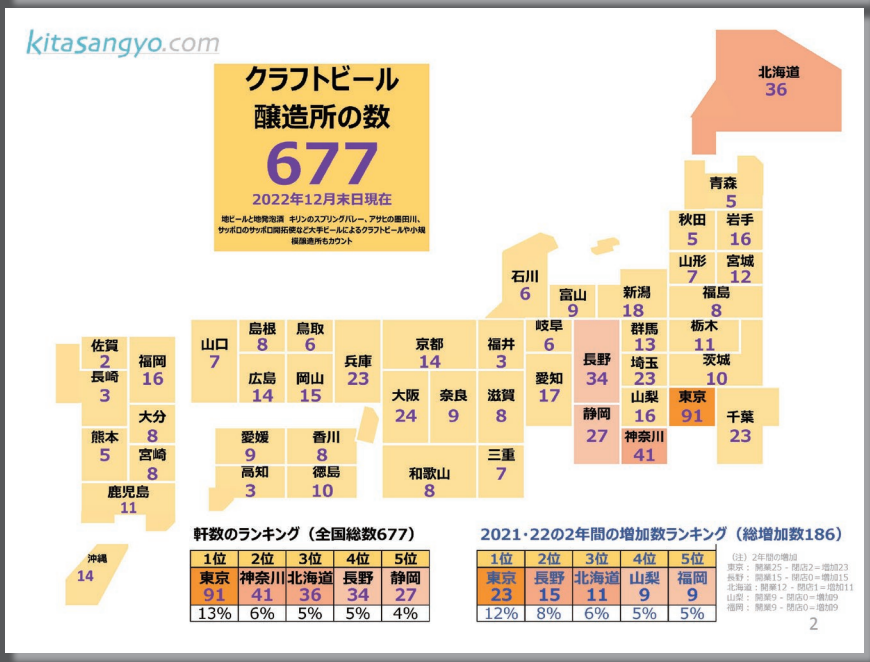
お酒 STATISTICS
オサケ スタティスティックス
ちょっと意外な、お酒の統計情報紹介

ちょっと意外な酒類の統計、あまり知られていない統計データを、ビジュアルな資料でご紹介するコーナー。当社で蓄積しているデータを不定期連載でお届けします。

今回は、「クラフトビールの状況」と「お酒の集中県」です。





●クラフトビール醸造所の数は 677 @ 2022 年末

地ビール解禁の 1995 年以来継続している当社の独自調査による数字です。コロナ禍にもかかわらず、2021・22 年は増加傾向が著しく、特に 2022 年は 124 か所が開業。グラフでわかる通り、地ビールバブル（?）の 1997 年 125 か所にならぶ数字です。2023 年も 2022 年と同程度かそれ以上の増加が見込まれます。

アメリカのクラフトビールは醸造所数 9,118 か所（Brewer's Association、2021 年現在。2022 年の数字はまだ出ていない）。日本ははるかに及びませんが、アメリカと比べると日本は人口が 38%（アメリカ：3.35 億人、日本 1.26 億人@ 2022 年）、一人当たりビール飲酒量が 46%（アメリカ：72.6L、日本 33.2L @ 2021 年―キリン）なので、9,118 か所 x 0.38 x 0.46 = 1,593 か所相当との比較と考えれば、「アメリカの 4 割くらいには達している」といえるかもしれません。

● 47 都道府県すべてにある + 東京に集中

2 つめのスライドのように、全都道府県にクラフトビールがある。1 位は東京の 91 か所、2 位は神奈川の 41 か所。首都圏で市場が拡大していることが伺えます。3・4・5 位の北海道・長野・静岡も、クラフトビール旺盛県というイメージが定着していますね。

増加数でも東京はとびぬけています。2 年で 23 か所増（25 か所開業、2 か所閉店で差し引き 23 か所増）は、2 位の長野 15 か所増、3 位の北海道 11 か所増を大きく引き離しています。

3 つめのスライドは、当社が公開している醸造所マップの、東京都心部を拡大したもの。アイコンの色で、赤：2000 年までの開業、青：2001 ～ 2010 年開業、黄：2011 ～ 2020 年開業、緑：2021・22 年の開業、と区分していますが、半径 10Km ほどの地域にこれだけ多くのクラフトビール醸造所があるのには驚きます。

2021・22 年の 2 年間の開業分だけ社名を記していますが、特にこの 2 年の新規開業が多い事がわかります。

●酒類ごとの集中県、集中のメリット

お酒は、酒類によって「集中県」があって、多くの場合は「主産地」でもあります。クラフトビールは、史上初めて首都東京が集中県になったお酒です。現状では生産量の多い主産地とは言い難いですが、将来は主産地になるかもしれません。

	1 位	2 位	3 位	備考
クラフトビール	東京 91	神奈川 41	北海道 36	2022 年 12 月時点
ワイン	山梨 98	長野 63	北海道 61	2022 年 8 月時点
シードル	長野 92	北海道 19	青森 15	2021 年 8 月時点時
清酒	新潟 90	長野 83	兵庫 71	2022 年 1 月時点
本格焼酎 泡盛	鹿児島 110	沖縄 48	宮崎 37	2022 年 1 月時点
(参考) 人口	東京 140	神奈川 92	大阪 88	2022 年 10 月時点

（当社の調査による推計　人口の単位は 10 万人）

夏の海岸で 2 軒の屋台のアイスクリーム屋さんがアイスクリームを売る時、2 軒が離れるより、近くに 2 軒並んで屋台を構えるほうが、2 軒ともたくさん売れるのだそうです。この例えが適切かどうかは怪しいですが、お酒も同じ地域に同じ酒類が集まると市場自体が拡大し、技術やマーケティングでも切磋琢磨してレベルもあがっていくのでしょう。

アメリカのワシントン州はボーイング社など重工業も主要産業ですが、お酒を州の重点産業にして優遇策をとっています。多くのクラフトビール、クラフトディスティラリー、ワイン醸造所が集積していることが全米で最も人気のある州の大事な構成要素になっています。　(text = t.kita)

この資料は、きた産業のホームページでもご覧になれます。https://kitasangyo.com/e-academy/osake-statistics.html